静岡県立大学短期大学部東日本大震災復興支援活動

「HPS スマイル・プロジェクト」第５弾報告

＊この活動はオートレースの補助（24-0-047）を受けて実施しました。

◇日時：平成 24 年８月 24 日（金）～27 日（月）

◆場所：福島県相馬郡新地町

1）小川応急仮設住宅（25 日午前）

2）新地町児童館（25 日午後）

3）雁小屋応急仮設住宅集会場（26 日）

◇参加者：HPS 養成講座修了生１名（長谷川）　◇宿泊（２泊）角田グリーンホテル

HPS 事務局職員１名（渡辺）　〃

介護福祉専攻１年学生６名　◇宿泊（1 泊）不動尊公園キャンプ場

社会福祉学科教員１名　〃

◆実施概要：

昨年度の復興支援活動は、本プロジェクトの趣旨を理解した方々の寄付金及び赤い羽根共同募金を主な資金に合計４回の活動を実施することができた。大震災から１年が経過し、一部居住制限のある地域を除き、被災者の方々の生活は比較的安定してきている。しかし、沿岸部地域は元の居住地に戻って生活再建を望む声と、高台などの安全な地域に新たに住居を設けて生活復興を願う声が様々あり、安全な場所での居住用地の確保が難しい現実や破壊された鉄道の再開も進まない中で、ほとんどの地域で復興計画は具体化していない。被災した子どもたちにとっては、どこに住むかという問題よりも、家族一緒に、学校や幼稚園・保育園などの友達・先生に囲まれ、安心・安定して暮らせることが重要である。応急仮設住宅で暮らす子どもたちに安心・安定生活や成長発達の基盤である「遊び」は保障されておらず、遊ぶ場、遊ぶ機会、遊ぶ人が圧倒的に欠けていることには被災 2 年目を迎えても変わらない。本プロジェクトを継続実施することは異論なく決まったが、問題は活動資金をどう確保するかであった。幸い、財団法人 JKA 復興支援補助第 2 次募集において申請した活動計画の補助金交付が認められ、本プロジェクトの１年間の活動資金を得ることができた。活動計画では、夏休み、冬休み、春休みの合計３回の「スマイル・プロジェクト」を実施する予定であり、今回の活動はその第１回目「夏休み子どもウィーウ」である。第２次募集のため補助金交付決定が７月末であり、それから参加できるHPS や学生等との調整も遅れてしまい、期間・場所を短縮して８月最後のウィークエンドの活動となってしまったが、本プロジェクトの新地町でのこれまでの活動実績により、児童館と仮設住宅２か所の協力のもと、夏休みらしい遊びの企画を実施することができた。

参加したHPS事務局職員、学生、教員の計７名はレンタカーで２４日夜に本学を出発し、東名高速、首都高速、東北自動車道を北上。途中、阿多太良ＳＡで仮眠し、２５日早朝に埼玉から新幹線で参加するHPSと白石蔵王で合流。合計７名で２５日午前に活動する新地町小川応急仮設に向かう。小川仮設ではこの日は仮設で暮らす子どもたちが主体に企画実施するイベント「TOWN MARKET」実施日であり、本プロジェクトの参加者は子どもたちの活動のサポートを行った。HPS関係者は、主に中学生・高校生の遊び体験コーナー「ひまわり学園」でのお手伝い・アドバイスを担当し、学生は受け付けや模擬店を手伝った。

午後は、新地町児童館に移動し、子どもたち、保護者、児童館職員の方々との遊び支援を実施した。遊びメニューは、球や円柱キャンドルに色とりどりの装飾を施して完成させるオリジナル・キャンドル工作、カラフルで様々な形のビーズにゴムひもを通して作るブレスレット・ネックレス作り、色々な幾何学模様に自由に色を塗る塗り絵、シャボン玉、ゴム風船に小麦粉を詰めて作るオリジナル人形工作などを用意した。活動スペースが十分あり、集まった子どもたちはすべてのメニューを楽しんだが、特に、キャンドルと人形づくりに熱中した。キャンドル作りの装飾や色塗りは幼い子供には難しい面があるが、集まったこともたちは小学生中心であり、じっくりと時間をかけそれぞれの創造性を発揮して人、動物、ケーキなどのキャンドルを完成することができた。参加した子どもたちは完成品を母親に見せたい、部屋に飾りたいなど、作るプロセスと完成後の楽しみを笑顔で話してくれた。ゴム人形作りは最も子どもたちが楽しめた活動であった。作り方自体はシンプルで、ゴム風船の中に小麦粉を詰め、目や鼻などペンで書き、毛糸の髪の毛を接着剤でつけるだけのものである。しかし、ゴム風船の中になかなか小麦粉が入らないため、悪戦苦闘することになる。最初は用意したじょうごを使ったが、ほんのわずかしか入っていかないため、じょうごよりも口の広いペットボトルを活用する工夫や小麦粉を押し込むための棒を大小様々に使ってみるなど、スムーズに進まないことがかえって子どもたちの集中や好奇心を引き出すことができた。子どもたちだけでなく、保護者や職員も一緒になって取り組み、様々な人形を完成させることができた。中身が小麦粉のため触ると感触が良く、一生懸命小麦粉を詰め込んだ思い出が形になって参加者は大満足であった。

２６日は雁小屋応急仮設住宅の集会場周辺と集会場内を使い、清水災害ボランティアネットワーク及び東海大学学生との共同企画「夏休み遊びフェア」を開催した。本プロジェクトは、かき氷、チョコバナナ、射的、大シャボン玉遊び、室内工作を担当し、その他にスーパーボールすくい、竹水鉄砲づくり、牛乳パックの紙すき、うちわ作り、くじ引き、バルーンアートなど様々なブースで集まった子どもたちを初め、仮設で暮らす高齢者等の住民と楽しい時間を一日過ごすことができた。

＜小川仮設 TOWN MARKET の様子＞

子どもたちが運営主体のタウンマーケット

仮設住宅の中に商店街を作ります

受付でマーケット通貨と交換します

中・高校生主体の遊びブース

様々な小物クラフト作りが体験できます

受付に作品例が展示してあります

小さな子は親と一緒に工作を楽しめます

空き缶キャンドルに色づけ

＜新地町児童館での活動の様子＞

児童館の中に遊びのコーナーを設けました

最初は何ができるのか怪訝そうな表情

沢山の種類や色のビーズを用意しました

線からはみ出さないように集中して

親も子どもも真剣そのもの

完成したキャンドルたち

小麦粉がなかなか風船に入らない所がミソ

やっとできた小麦風船人形にご満悦

＜雁小屋仮設「夏休み遊びフェア」の様子＞

当日は暑く、やっぱりかき氷に人が集まる

集会場で休んでいる人たちへ持っていきます

小さな子でも射的は楽しめます

孫を手伝うおばあちゃんも真剣

姉妹でオリジナルなうちわ作りに参加

一日中仮設で暮らす子どもたちが楽しめました

みんなで大きさを競う楽しい大シャボン玉

装飾は自由に牛乳パックの紙漉き体験